

平成 28 年度第 1 回上越市女性サポートセンター運営委員会 会議録

1 会議名

平成 28 年度第 1 回上越市女性サポートセンター運営委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成 27 年度事業について（公開）
- (2) 平成 28 年度事業計画について（公開）
- (3) その他について（公開）

3 開催日時

平成 28 年 4 月 28 日（木）午前 10 時～11 時 30 分

4 開催場所

高田地区公民館 第 5 研修室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：阿部和子、片所真理子、齋京貴子、中島恒光、上原みゆき
- ・事務局：早川館長、山本係長、金井主任、丸山主事

8 発言の内容

(1) 平成 27 年度事業について

事務局より一括説明

質疑・意見等

中島委員：27 年度事業報告書にある表の見方を教えてほしい。受講者数と延べ人数とは何が違うのか。

事務局：延べ人数は、各回の参加者を合計したものである。

齋京委員：この資料には 27 年度の決算見込みがあるが、予算の記載がないため、判断のしようがない。

事務局：次回以降改善する。

阿部委員長：昨年度は10月に第1回会議を開催した。

上原委員：昨年度、春に会議を開催しなかった理由について、教えてほしい。

事務局：会議を1回しか開催できなかったことは申し訳ないと思っている。今年度は遅延のないように気を付ける。

(2) 平成28年度事業方針及び事業計画について

事務局より一括説明

質疑・意見等

阿部委員長：女性講座について、平日の夜に開催したため、参加者が少なかった。PRの方法と開催時間帯について検討する必要がある。

上原委員：タイトルが「居心地の良い場所づくり」とあるが、具体的に何の話を受けるのかイメージがつかない。

片所委員：一目でテーマがわかるものがよいと思う。

阿部委員長：講座のタイトルは非常に大事である。今労働相談では、どんなものが多いのか。

中島委員：県の窓口では、いじめ・パワハラに関する相談が多くなっている。

阿部委員長：コミュニケーションがうまく取れない人が多いということが問題だ。いい大学を出て学力はあるのに、コミュニケーション不足で仕事を辞める人が多くなっている。

上原委員：3月にコミュニケーションがテーマの講座を開催して、ある程度の人が集まったのだから、講師を変えて続編をやってもよいのではないか。以前土曜日の午前中に開催された講演会に参加したことがあるが、多くの参加者がいた。時間帯と中身次第で人は集まると思う。

阿部委員長：市民プラザの男女共同参画センターでも講座を実施しているが、計画表を見て、それと重複しないよう内容を考えてもらいたい。

事務局：承知した。

阿部委員長：次に「前向きに働くことを考える～自分の思いを形にする方法～」についてであるが、「働く」をテーマにすることは重要である。女性サポートセンターは、もともと働く婦人の家という名称だった。「働く」ことについて考

える講座は必要不可欠である。

上原委員：このタイトルは、昨年齋京委員が考えたものだである。

阿部委員長：これは具体的にどんな内容になるのか。

事務局：予定している講師の方は、雑貨屋を経営している方と、パン屋を経営している方の二人である。

阿部委員長：起業家から話を聞くという内容になるのか。

上原委員：以前起業家を呼んで話を聞いた際は、若い方の参加が多かった。

阿部委員長：「働く」ことを考えるにあたって、実体験をされた方の話を聞くのはいいことだ。

中島委員：予定している講座には、主婦層向け、働く女性向け、という区分があるように感じる。

阿部委員長：主婦も労働している。家事も労働に値するが、日本では対価が払われていない。

片所委員：（仮称）厚生産業会館も来年開館予定であり、あまり女性を前面に出さなくてもよいのではないか。労働の場においても、今は男女の分け隔てがなくなってきている。

阿部委員長：民間では、まだ男女格差がある。国連のジェンダー格差でも、日本は毎年下位にランクされている。まだまだ発展途上にある。男女共同参画センターでも取り組んでいるが、なかなか難しい。あえて女性の労働を問題にすることは大事。

片所委員：チラシを作るときは、中身が見えるようなテーマにするのが良いと思う。例えば「パン屋を作るまでの」など、みんなが聞きたいと思うようなタイトルがよい。

阿部委員長：雑貨屋とパン屋はどちらが良いか。

委員：パン屋のほうが聞いてみたい。

阿部委員長：ではパン屋を経営している方に講師をお願いしてよいか。

（一同、異議なし）

上原委員：会場でパンの販売をしてもらってもよいのではないか。

事務局：宣伝にならなければ問題にならないのでよいと思う。

阿部委員長：続いて家計と暮らし講座についてであるが、老後の不安がテーマになっている。意見はないか。

上原委員：終活についても話を聞いてみたい。お金のことも気になるが、健康作りや第二の人生をどう豊かに生きるか、ということも聞いてみたい。

片所委員：今は、老人が老人を助ける時代になっている。

上原委員：終活というのは、どの世代までが対象になるのか。

斎京委員：30代、40代であっても終活世代だと思う。

阿部委員長：一口に終活といっても、老後資金や健康、福祉など、いろいろあっていいと思う。

阿部委員長：続いて、女性のためのリフレッシュセミナーについて、ヨガとあるが、太極拳などは入らないのか。

事務局：事務局では一案としてヨガを考えたものである。

阿部委員長：補足レジュメの説明をしてほしい。

事務局：昨年ストレッチ講座が好評だったので、引き続き軽運動の講座を実施してもよいのではないかと考えた。一方で3回では物足りないとの意見が多かったため、6回連続で実施する案を提示させていただいた。

阿部委員長：6回同じ講師にするのか、毎回違う講師にお願いするのかを検討するということが。

事務局：そうである。

委員：違った講師にお願いしたほうがいいと思う。

斎京委員：6回同じ講師であると、欠席した場合、ついていけなくなる人も出てくる。

上原委員：ヨガにもいろいろ種類があるので、向き不向きもあると思う。

事務局：公民館講座は学びのきっかけづくりが目的であり、次へ進むための導入として受講していただくのが良いと思われる。

上原委員：仮に3人の講師を呼べば、同じヨガでも3種類の違ったヨガを体験できる。とても贅沢な感じがする。

事務局：ヨガの講座を3人の講師に2回ずつ依頼することで計画を立てることとする。

阿部委員長：講座の開催時期であるが、12月というのは遅すぎる。10、11月はさまざまな講座をやっている時期であるため、人が集まりにくい。

事務局：秋までには終わらせるように講座を計画する。

阿部委員長：委員のところに講座の案内文書を送ってほしい。

斎京委員：チラシをもらえれば、正善寺工房でやっている教室の受講生に対して案内もできる。

事務局：承知した。

(3) その他

阿部委員長：意見等ないか。

(一同、意見等なし)

9 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課 TEL：025-545-9245

E-mail：j-kouminkan@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。